

フォーラム後の取り組みについて 大枠（案）

フォーラムでは、基調講演やGWを通して地域で支え合うことの重要性を明らかにすることで、市民の関心を高め、新たな支え合いの担い手を発掘することを大きな目的としていました。勉強会を通じて、支え合いに関心を持ち、フォーラムに参加してくださった方々を具体的な活動につなげていくことができると考えています。

（1）目的

本勉強会は、次の2点を目標として実施する

- ①関心のあるテーマのワークに参加し、自身のおもいを参加者のみなさんと共有する
- ②勉強会の運営について、一つの方法としてさわやか財団の手法を学ぶ

（2）日時

第1回勉強会 平成28年10月5日（水）14時～16時（受付開始13時45分）

第2回以降勉強会 未定（会のなかで決めていく）

（3）場所

けやきホールの会議室を二部屋使用

（4）主催

支え合うきよせ委員会（清瀬市生活支援・介護予防サービス提供主体等協議体）

（5）講師

- ・鶴山 芳子 氏（さわやか福祉財団理事）
- ・永末 厚二 氏（さわやか福祉財団インストラクター）

（6）開催方法

- ・参加者は上限40名ほど。30名ほどが望ましい。
- ・話し合いのテーマは、フォーラムで示された4つのテーマから2つに絞り、15名ずつで別れる。（例：有償ボラと居場所づくり）
- ・資料として、さわやか福祉財団の「助け合い活動創出ブック」を使用し、支え合いの活動の実施に向けて基本的事項を抑える。

http://www.sawayakazaidan.or.jp/new_community_support_project/data/02_sawayakabook_all_20150622.pdf

- ・ 模造紙などは使用しない。口の字のような形で机を組み、ファシリテーターを中心に、どのような活動を行っていきたいかを参加者一人ひとりに話してもらう。

(7) 協議体委員の役割

- ・ 勉強会の運営の手法を学ぶ。
- ・ 話し合いの内容を記録する係、報告（発表）する係を務める。

(8) 今後のイメージ

